

## 第 14 回 ケアラボ@きたかみ

主催： 北上市・北上市包括支援センター主任介護支援専門員部会  
北上市在宅医療介護連携支援センター

10月17日 市民交流プラザ2階にて第14回ケアラボ@きたかみが開催されました。今回は『認知症初期支援チームが関与した事例』について事例提供者地域包括支援センターいいとよ 近藤淳子氏が行いました。認知症推進委員について、長寿介護課 石山美貴主任保健師が説明しました。認知症サポート医である、いわぶち脳神経クリニック院長 岩淵崇医師より、受診時に配慮することや、伝える内容とテクニック、受診のタイミングと状態像など、医師から求めることについての説明がなされました。検討事例については、現在と3年前の支援課題、支援を行う優先順位などを話し合いました。また多職種間でそれぞれ根拠や対応方法について議論しました。専門職ならではの意見交換が活発に行われました。今回は医師や歯科医師の参加が多く、21職種89名が集まったのケアラボとなりました。



## 「注文のやんべな料理店」



主催：注文のやんべな料理店プロジェクト

共催：岩手県社会福祉士会中部ブロック リレーフォーライフきたかみ実行委員会

北上市在宅医療介護連携支援センター

後援：北上市

10月17日 江釣子ショッピングセンターPAL内のファミリーレストランチロルにて、認知症の理解を深める企画である県内初の「注文のやんべな料理店」が開催されました。約50名が来店され、同市内の介護施設利用者9名が接客に挑戦しました。主催者の菊地和恵（プロジェクトリーダー）氏は「来店者も参加者も笑顔でよかった。認知症でも出来ることはたくさんあることを感じてほしい。」と挨拶がありました。参加者は開店前にネイルアーティストから爪の手入れしてもらい嬉しそうでした。最初は不安なのか「何をするのかしら？」と言っていたのですが、入店時には来店者をお出迎えし注文を取りました。接客する方もされる方も笑顔が素敵で、付き添ってきたご家族の方は驚かされていました。お食事を運んで一段落すると「お水のお替りどうですか」と声をかけている方もおりました。終了後、参加者に聞いてみると「嬉しかった」「夢みたい」と満面の笑みで答えていました。新聞社の方やTV取材の方にもはにかみながら答えておりました。今後も継続開催を考えており、認知症に寛容な社会づくりに貢献できるのではないかと期待しております。



## 第4回 地域包括支援センター展勝地エリア研修会 「緊急時の対応について」

主催：地域包括支援センター展勝地

10月21日、ケアハウスエスカールにて地域包括支援センター展勝地エリア研修会が行われました。さくらネットミーティングの今回は「緊急時の対応について」を在宅きたかみ 柴内一夫医師がお話をしました。救急蘇生法の指針、窒息時の対応、対処方法、バイタルサインなどについてや、「突然のこのような症状の時には119番」のパンフレットを見えるところに貼っておくこと、医療と介護の垣根を低くして、医療人は介護のことをもっとよく知り、介護人は医療のことをもっとよく知ること、様々な職種の人に関わり共有しながら高齢者の健康な生活を維持・再建すること、多職種のネットワークで地域を支え合うことなどの内容でした。その後、なんでもざっくばらんに話せる「訪問してみても見守りしてみても不安だったこと」についてグループワークを行いました。一人で訪問して玄関まで出てきてくれる人はいいが、返事がないととても心配、豪雨の時の避難勧告が出た際の体制づくりやたくさんの方の不安要素を抱え地域の活動を行っていました。地域づくりには、地域ネットワークが大切となります。一人で抱えず、相談場所の確認や、顔の見える関係づくりをして行きましょう。



手作りのチョコちゃん、よく似ています。目がやさしく感じました。テッシュで上手に出来ていました。

ニチイグループホーム出前講座

### 「今すぐ病院受診する症状は」

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

10月24日、ニチイケアセンターグループホーム北上駅前にて在宅きたかみ 柴内一夫医師により「今すぐ、病院受診する症状は」と、在宅ケア主任看護師 駒ヶ嶺美春氏より「窒息時の対処方法と実践について」出前講座を行いました。グループホーム職員と訪問看護、訪問介護職員21名が参加して、窒息時の体位、対応についての実演指導を交え、こんな時はどうしたらよいかを学びました。スタッフは食事の際のむせ症状に注意しており、対応に困ることも多々あるようで、こんな時はどうしたらよいかと活発に質問されておりました。普段から利用者の情報を共有しながら介護にあたっており、慌てずに適切な対応をイメージしながら行動するようにしたいと感想を述べられことが印象的でした。



## 第3回在宅きたかみ/医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会

### 『介護職員の専門性とやりがいとは・・・』

### ～介護職員の職務と倫理について考える～』

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

10月31日、北上済生会病院大会議室にて特別養護老人ホーム光寿苑総合施設長 太田宣承氏を講師に第3回人材育成のためのテーマ型研修が行われました。「介護職員の職務と倫理について理解する、介護職員の専門性とやりがいについて考える」ことを目的に開催されました。参加者は56名13職種で介護職員の方が多く参加しておりました。実際にご自身が施設で働いてみて見えてきたことについて話されました。「0からの発想」「常識の捉え方」「日常のあたりまえ」「自分らしさとは何か」など抜群のトークから深く考えさせられる内容でした。「仕事としてだけでなく、子育てや家庭でも役立つお話でした。」「改めて自分を振り返ったり、原点に戻ったり考えさせられる時間になりました。」「また、たくさんお話を聴きたい」など、参加者からの感想が寄せられました。宣承氏の講演が初めての方もいれば「何度も聞いております」というリピーターが多いのも印象的でした。本当に楽しいお話の中から、笑いあり涙あり、明日につながるお話をして頂いた研修会でした。



## 高知県中央西福祉保健所

地域包括ケア推進担当の方が視察へ来院されました

11月6日 高知県中央西福祉保健所の地域包括ケア推進企画監 小松仁視氏、地域連携担当チーフ 竹崎廣幸氏、須崎福祉保健所地域支援室長 山下泉恵氏の3名が北上市在宅医療介護連携支援センターの視察においでになりました。100歳体操で有名な高知県中央西地区は高齢化がかなり進んでおり、また病床数が多い地区ということでした。北上市の取り組みで参考としたい「わたしのきぼうノート」の生まれた経緯や「在宅医療介護連携推進事業」の取り組み状況についての研修内容でした。高知県中央西地区の強みを活かされた地域包括ケアシステムの構築への一助となることを願っております。むしろ、視察にいらした保健所の方々の熱意を当方が学ばせて頂いたというところがあり、遠方からお越しいただいたことと併せて感謝申し上げます。



## 令和元年度 在宅医療推進のためのスキルアップ研修会

# 「在宅医療の実施とこれから」

主催:北上医師会

令和元年 11月7日北上済生会病院にて令和元年度在宅医療推進のためのスキルアップ研修会は、「在宅医療実践とこれから」というテーマで開催されました。参加者は55名でした。

坂の上野田村大志クリニック 看護師の高吉絢子さんより

「当院の在宅診療の現状と課題」

さくらの内科クリニック院長 成ヶ澤靖先生より

「施設での看取りについて」

ちとせ医院院長 菊池ちとせ先生より

「当院における訪問診療の現状と課題」

北上済生会病院副院長柴内一夫先生より「当院の現状と課題  
新病院について」

北上医師会介護在宅緩和ケア担当理事ホームクリニックえん

院長 千葉恭一先生より「北上市の在宅医療のこれからのについて」お話ししていただきました。



## 令和元年度 第3回介護支援専門員スキルアップ研修

主催：北上市役所長寿介護課

共催：北上市在宅医療介護連携支援センター・地域包括支援センター主任介護支援専門員部会



11月12日、CMスキルアップ研修は総合福祉センターで行われました。参加者は49名でした。在宅医療介護推進事業について長寿介護課地域包括支援係 高橋範行係長より入退院支援ハンドブックについて北上市在宅医療介護連携支援センター医療ソーシャルワーカー菊池涼子氏より医療介護連携における視点についてホームクリニックえん医療ソーシャルワーカー櫻井茂氏より講演されました。入退院支援のハンドブックの要点解説を地域包括支援センターわっこ所長の老林聖幸氏（介護従事者）と菊池涼子氏（医療従事者）が行った後、ハンドブックを使用してグループで検討を行いました。入退院支援ハンドブックは参考になるし具体的でわかりやすい説明でした。活用できそうなどの意見が多く聞かれました。今後はCMが他職種と一緒に研修できる機会があるとよいなどの意見がありました。

編集後記：台風災害に心を痛めているうちにあっという間に冬到来です。楓の色づきが例年に比べ遅くなっています。最近やっと桜の葉が散り始めてきました。朝晩もだいぶ寒くなってきました。今年の冬はどんな寒さになるのでしょうか？皆様ご自愛くださいませ。

発行：〒024-8506

北上市花園町1丁目6-8

（北上済生会病院管理棟2階）

北上市在宅医療介護連携支援センター

TEL 0197-88-3011

FAX 0197-88-3012